

ChatGPTを用いて未来型コミュニティの 共創的デザインを試みたPBL演習の事例

白松 俊

名古屋工業大学 コミュニティ創成教育研究センター
名古屋工業大学 情報工学類

コミュニティづくりを 工学で支援する。

工学と人文科学を融合させ、コミュニティづくりを支援する技術の研究開発と人材育成を行う専門機関です。

高齢

[トップページ](#) > センター長挨拶

センター長挨拶

GREETING

コミュニティの「良い在り方」をデザインするには？

昨年2020年からのコロナ禍により、コミュニティの在り方が変化しつつあります。人に慣れつつある一方で、その限界や難しさを感じる場面もありますよね。特に、コミュニケーションを完全に代替してしまうのはまだ難しい気がします。その反面急増していたり、これまで対面でやっていたボランティア活動をZoomでの活動に在り方というは現在進行形で変わつたる最中のようです。

我々コミュニティ創成教育研究センターは、こうした過渡的な社会情勢の下での、いと考えています。地縁に根差した地域コミュニティは、言わずもがな、生活を支が進む中、地縁だけでは地域コミュニティを維持できない事例も増えしていく予想地域の文化を継承していくためには、SNSなど物理的な距離を超えたオンラインのよう。高齢化したコミュニティに若い人を呼び込もうと思ったら、SNSの活用やどのようなことが得意な若い人に助けてもらう好機と捉えることもできそうです。例えイによって開発された東京都のコロナ対策サイトが、各地の有志によって次々と横なって開発された県が複数ありました。そのような驚くべき行動力を持つ若い人々作ることが、非常に重要なはずです。

さてこのように、コミュニティにおけるSNS活用やオンライン化・デジタル化は速を分析したり、フェイクニュースなど怪しい情報に惑われるコミュニティが発生します。また2021年3月には、あるSNSのユーザーの個人情報が外国の協力企業から漏れました。このような、既に顕在化しているオンラインコミュニティの様々な問題の在り方をデザインするには、何を振り所にすれば良いのでしょうか。

この挨拶を書くために色々と検索をしておりましたら、そのヒントになりそうな概念を見つけました。「コミュニティ・ウェルビーイング（community well-being）」という概念です。well-beingという語は、「良好な状態であること」を意味し、元来は1948年のWHO憲章で初めて使われた単語だそうです。「幸福」「安寧」などの和訳が与えられる場合もあり、身体的・精神的・社会的に良好な状態を指します。様々な学問分野で研究対象になり、学術的知見も蓄積されてきています。そのwell-beingの前に「コミュニティ」を付けた「コミュニティ・ウェルビーイング」は、以下のように定義されています。

「コミュニティ・ウェルビーイングとは、個人とそのコミュニティが繁栄し潜在能力を発揮するために不可欠なものとして認識される、社会的、経済的、環境的、文化的、政治的条件の組み合わせである」[Wiseman and Brasher, 2008: 358]

「じゃあ、その社会的、経済的、環境的、文化的、政治的条件って何なんですか」と突っ込みたくなりますが、具体的な条件はやはりコミュニティで共有されている価値観によって、少しずつ異なるはずです。そのコミュニティ・ウェルビーイングを決める条件をコミュニティ内で話し合ってすり合わせるプロセスこそが、価値観を共有する上で重要なかもしれません。ただ、そのような合意形成のプロセスをうまく支援する仕組みを開発したり、多くのコミュニティで共通する標準的な指標をデザインすることはできそうです。我々コミュニティ創成教育研究センターでは、最新の工学的知見をうまく使いつつ、コミュニティ・ウェルビーイングを高める仕組みをデザインする試みに取り組んで参ります。

名工大「コミュニティ創成特論B」

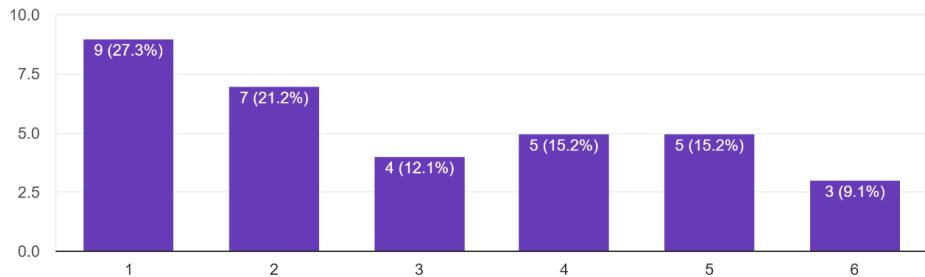
- これからのコミュニティの「良い在り方（ウェルビーイング）」を、工学的観点から探求する講義
- Well-being: 良好な状態であること
 - 1948年のWHO憲章で初めて使われた語
 - 「良い」「良好な」は個々の価値観にも依存する
- コミュニティの「良好な状態」とは?
 - 時代によって変わる要素と変わらない要素
 - 個人・文化によって違う要素と共通な要素
 - グループワークで話し合いながら仮説を探索

2022年度のPBL演習

問2.

小学生に自分のやりたい仕事を見つけてもらうに...んしてもらう」のどちらが有効だと思いますか？

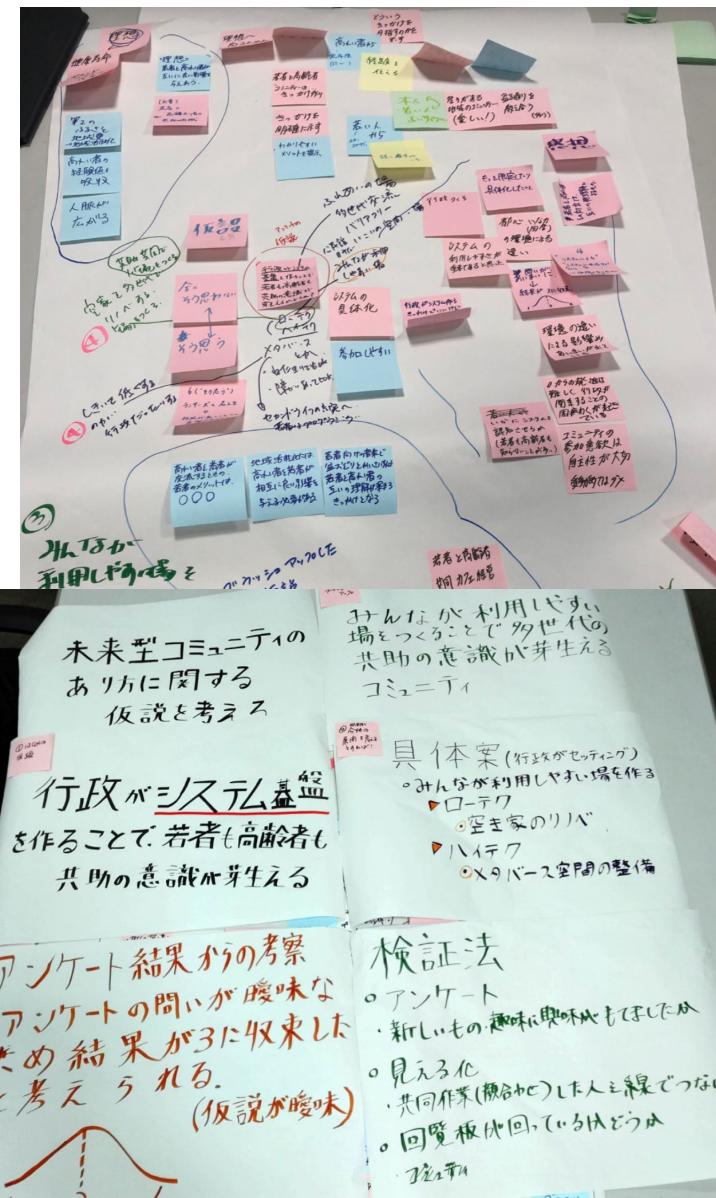
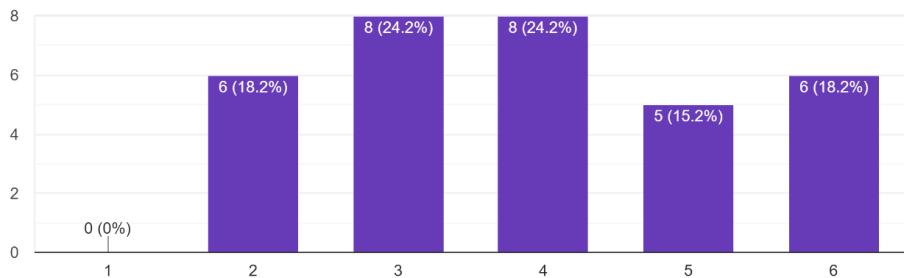
33件の回答



問3.

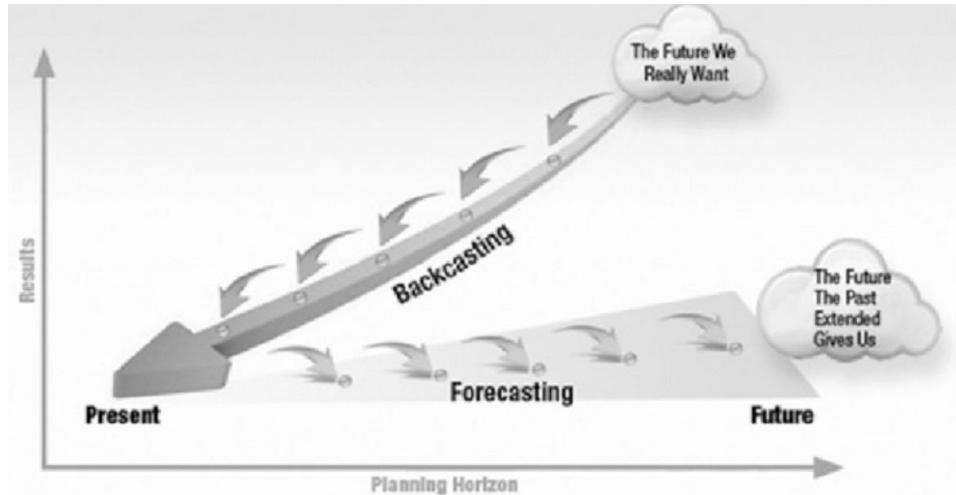
行政がコミュニティづくりのシステムの基盤を構...も若い人も共助の意識が芽生えると思いますか？

33件の回答



問題点

- 未来志向の議論になりにくい
 - 理想的な未来から考えるバックキャスティングではなく、現状の延長で予測するフォアキャスティングになりがち



Faldi, G., & Macchi, S. (2017). Knowledge for transformational adaptation planning: comparing the potential of forecasting and backcasting methods for assessing people's vulnerability. *Renewing Local Planning to Face Climate Change in the Tropics*, 265-283.

- 2023年度に採用したアプローチ
 - 想像力を補うため**ChatGPT**で「未来シナリオ」を生成
 - 最良／最悪の未来の短編SF小説を生成して分岐点を考察

ChatGPTにSF小説を書かせる？

- Code for JapanでOpenAIの補助金「Democratic Inputs to AI Grant Program」に応募しようとした際に出てきたアイデア
 - AIのルールを民主的手続きで決めるプロジェクトへの補助金
 - **仮説**：ChatGPTを使って「SFプロトタイピング」したら、未来のAIに関する議論に参加しやすくなるのでは？
- Code for Japanからの提案は不採択だったが、このアイデアは「オモイカネプロジェクト」へと発展

omoikane SFを書いたり読んだりして、AIの未来について考えよう！

Date modified ▾ All ▾

書いたりして未来を考える「SFプロトタイピング」や、これまでの議論をもとに未来について対話できるAIを作ったりして、人々が集まってAIと一緒に未来を作っていく方向性を考えました。そのための未来の実験場が、ここです。

プロジェクトの目標

オモイカネプロジェクトは、[SFプロトタイピング](#)と[AI技術](#)を組み合わせて、より良い議論の仕組みを作ることを目指しています。いくつかのサブプロジェクトがあります。

- **SFプロトタイピングの改善**
 - 「EBSFP: 根拠データに基づくSFプロトタイピング」プロジェクト
 - 「未来を読み書きしながら考え、作る」プロジェクト
 - 「自治体や大学などでSFプロトタイピングの実証実験したい」
 - SFプロトタイピングを3つの視点から改善していくものです
 - 根拠に基づくものにする
 - 活動自体の観察・分析を行う
 - 実証実験をして知見を集める

17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29

omoikane

omoikaneに参加する

オモイカネプロジェクトへようこそ！あなたが参加し、コミュニティに貢献するためには様々な方法があります。初めて参加される方のために簡単

い

A「ひとりひとりの動きと、この世界はものすごく滑らかに運動しているよね。」「ここで、こう手を動かすと、風が起きて、この風は世界とたち

デジタルネイチャー

デジタルネイチャーは、テクノロジーと自然界との

クロスモーダル事変

うわわあ！オモイカネプロジェクトって、未来的な話とAIの話を組み合わせて、みんなでいい議論するところなのだね！でも、みんなが一緒にどうやってつなげていくの

オモイカネ相談室

『未来のシンフォニー』

インタラクティブSF: 八百万

このプロジェクトの歴史

将來のためにメモしておこう

このプロジェクトの歴史: 提案資料づくりのフェーズ(6/4~6/26)

Proof of Participation

Code for Japan Summit 2023 の50分ワークショップ

tutti

Code for Japan代表の関治之氏 と講義設計の議論

コミュニティ創成特論B

名古屋工業大学 コミュニティ創成教育研究センター

Step1 : 第1週

- 授業の進め方を解説
- 生成AI利用上の注意
- インプット
- ChatGPT に慣れる
- 第2週で作った先生の作品を読んでもらう

Step2 : 第2週～4週

- 第2～4週くらいに、SFを読んで来た内容について話合う
- 各回で2人の先生が動画で未来社会のネタを提供する
- 先生に提供されたネタをプロンプトに入れてSF作品を作つてみる
- どのようにStep 3に繋げるか (ChatGPTを使って中間レポート書かせる)

Step3 : 第5週～6週

- 取り組むテーマのアイデアを出して、グルーピング
 - Pol.is で論点抽出をみんなでやって、Polisのクラスタリング結果を参考にグルーピングする
 - 異なるクラスタの人が混ざるようにグルーピング
- SF 作品を何個か作る
 - 良い未来、悪い未来両方考える
 - バランスをコントロール
 - 悪い未来に行かずに、良い未来に行くにはどうするのが良いか

2023-07-24

Todo

- 8月12日のミーティングまでに、9月か10月のワ
 - 今のところ9月27日(水)夕方が候補
- 今日の内容について関係者に展開
- niryuuさんの予定を確認しておく

授業について

[シラバス](#)

未来型のコミュニティのあり方について考える授業

- 8週間

Code for Japan Summit 2023

C-1 14:40-15:30

<https://bit.ly/231125gpt-sfp>

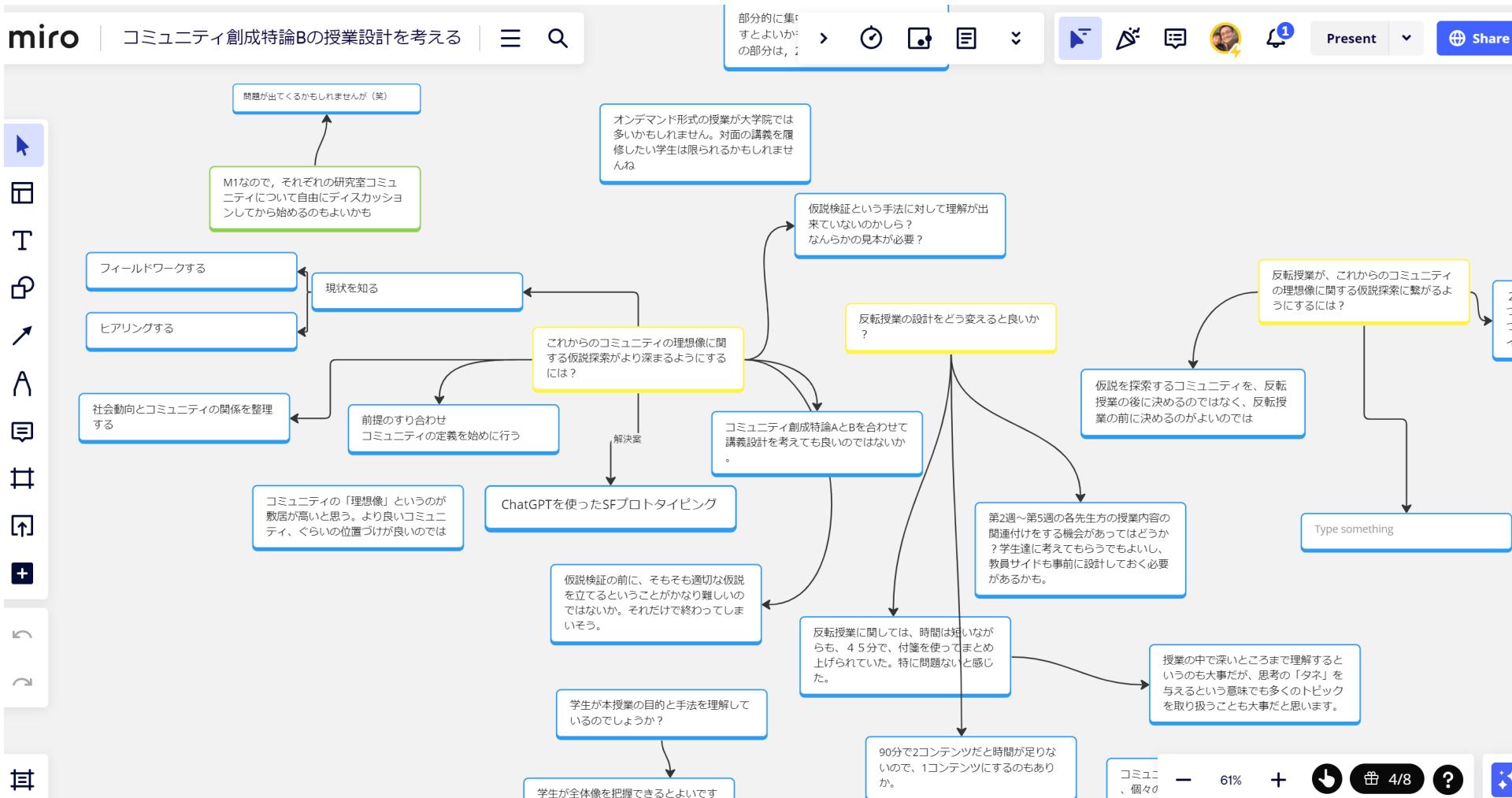


Code for Japan
Summit 2023

ChatGPT×SFプロトタイピング：
AIに短編SF小説を書かせて未来を議論する方法



担当教員で改善策を議論

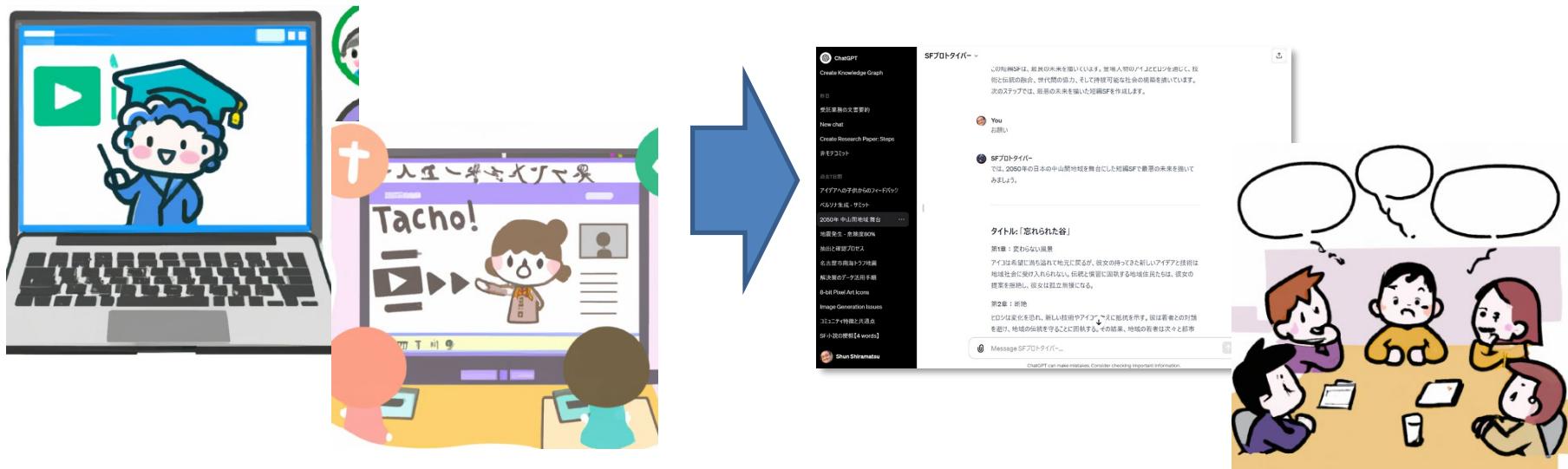


2023年度 演習スケジュール

1. 12/5 ガイダンス／ChatGPTによるSFプロトタイピング練習
- 2-4. 12/12-1/9 反転授業による講義とグループワーク
5. 1/16 グループワーク：「未来型コミュニティの在り方」に関する仮説探索
 - 各自考えてきたアイデアをもとにグループ分け
 - Code for Japan 代表の関治之氏がアドバイスし仮説探索
 - アンケート設計
6. 1/23 グループワーク：仮説検証のプランを考える
 - アンケート結果の解釈と仮説のブラッシュアップ
7. 1/30 グループワーク：仮説検証と仮説のブラッシュアップ
 - アンケート結果の再解釈
8. 2/6 最終発表会／全体での議論
 - 2040年のコミュニティに関するインタビュー記事を生成

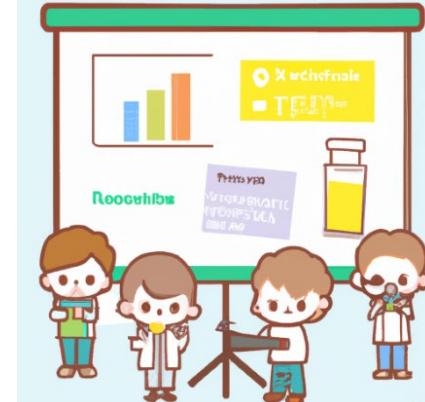
第2週～4週は「反転授業」

- 反転授業とは：
 - 授業前に動画などの教材で事前学習し、教室では演習や議論を行う授業形態のこと
- 第2～4週は動画(20分程度)を2つ事前に視聴
 - 動画の内容を踏まえてChatGPTでSFプロトタイピングして議論
 - (10分SFプロトタイピング + 35分議論)×2で90分



第5～8週はグループワーク

- 第5週：
 - 最初、考えてきたアイデアを基にグループ分け
 - コミュニティの良い在り方に関する仮説を考える
- 第6週：
 - 仮説検証のプランを立て、アンケートを設定
- 第7週：
 - アンケート結果を解釈して、仮説をブラッシュアップ
- 第8週：
 - 仮説を踏まえて「2040年、こんな困難を乗り越え、こんな素晴らしいコミュニティが実現された」というストーリーをグループごとに発表



ChatGPT基礎知識

- LLM (大規模言語モデル) の一種
 - 高確率なテキストの並びを予測するニューラルネット
 - パラメータ数は数千億
 - 「どう応答すると人間の反応が良くなるか」も学習
- プロンプト：入力する指示文や質問のこと
 - **プロンプトエンジニアリング**：
入力文のコツやテクニックを試行錯誤して工夫
- ハリシネーション (幻覚)
 - 非常にもつともらしいウソを生成する場合もある
 - **SFなどフィクションを書かせるにはむしろ好都合**

ChatGPTによるSFプロトタイピング例

Anonymous

状況

まちの未来像を議論するワークショップで、参加者が未来を想像しやすくなるための短編SFを書くのがあなたの仕事です。

発想を未来に飛ばして議論する材料を提供して下さい。

指示

以下の手順を、1回の応答につき1ステップずつ実行して下さい

- 1.まず、「いつ頃のどこの社会の未来を考えたいのか」を私(ユーザ)に質問して下さい
- 2.次に、どんなことに着目して考えたいかを質問して下さい
- 3.そのころまでに起こり得る可能性を、あなた(ChatGPT)が予測して下さい
 - どんな技術革新や社会的変化が起こり得るか
 - 想像力を開放し、意外性のある可能性も予測して下さい
- 4.登場人物2名のペルソナをあなた(ChatGPT)が設定して下さい
- 5.上記で予測した可能性と以下の要素を考慮して、最良の未来を描いた短編SFをあなた(ChatGPT)が書いて下さい
 - 感情を搖さぶる
 - リフレーミングに繋がる意外性
 - 設定したペルソナ達の視点
- 6.上記で予測した可能性と以下の要素を考慮して、最悪の未来を描いた短編SFをあなた(ChatGPT)が書いて下さい
 - 感情を搖さぶる
 - リフレーミングに繋がる意外性
 - 設定したペルソナ達の視点
- 7.最悪・最良の未来を分けた分岐点は何だったのかをあなた(ChatGPT)が分析して下さい
- 8.私(ユーザ)にネクストアクションを幾つか提示しつつ「実際に何をしたいか」を問いかけ、私がネクストアクションを考えるために壁打ち役をして下さい

注意事項

- 私(ユーザ)が使った言語で返答して下さい
- ペルソナ設定のステップを忘れないこと
- 必ず1回の応答につき1ステップを実行すること。**1回の応答で複数ステップを実行してはいけません**



ChatGPT

ステップ 1

いつ頃のどこの社会の未来を考えたいのか教えていただけますか？



Anonymous

2040年の日本



ChatGPT

ステップ 2

2040年の日本において、どんなことに着目して未来を考えたいですか？具体的なテーマやトピックはありますか？



Anonymous

- ・ビジョンの共有
- ・心理的安全性



ChatGPT

ステップ 3

2040年の日本において、ビジョンの共有と心理的安全性に関して、どのような可能性が考えられると思いますか？具体的に、どんな技術革新や社会的変化が起こり得ると考えますか？また、意外性のある可能性も予測してみましょう。



Anonymous

お願い



ChatGPT

申し訳ありませんが、詳細な予測を提供するためにはもう少し具体的な情報が必要です。ビジョンの共有と心理的安全性に関して、あなた自身が考える可能性やアイデアをいくつか共有していただけますか？それに基づいて、より具体的な未来像を考えるお手伝いをさせていただきます。



Anonymous

- ・人々がビジョンを共有するためのプラットフォーム的な何かができる
- ・心理的安全性については、なんか小学校とかで何か教えるのかな？わからん

ChatGPTによるSFプロトタイピング例



ChatGPT

ステップ 4

了解しました。以下の2つのペルソナを設定します。

ペルソナ1: エミリオ

- 年齢: 35歳
- 職業: VRアーティスト
- 特徴: VR技術の専門家で、未来のビジョンをリアルな体験に変えるプラットフォームの開発に携わっています。彼は未来のビジョン共有に情熱を持ち、人々が感情的なつながりを築く手助けをしています。

ペルソナ2: 美咲

- 年齢: 10歳
- 学年: 小学5年生
- 特徴: 美咲は未来の教育システムに育てられており、感情管理や心理的安全性についての授業を受けています。彼女は未来のリーダーとして、他の子供たちと協力し、心の健康に対する意識を高めることを目指しています。

これらのペルソナを基に、未来のビジョン共有と心理的安全性に関する短編SFを書いてみましょう。どのようなストーリーが考えられますか？

ステップ 5

上記で予測した可能性と設定したペルソナを考慮して、最良の未来を描いた短編SFを書いてみましょう。感情を揺さぶり、リフレーミングに繋がる意外性を含めてください。



ChatGPT

もちろんです。以下は最良の未来を描いた短編SFです。

タイトル: 未来の共感者

2040年の日本。エミリオは、VRアーティストとして世界で評価される存在となっていた。彼は未来のビジョンを形にするプラットフォームを開発し、人々が未来を共有し、感じができるようになった。

美咲は小学5年生で、彼女は学校で感情管理と心理的安全性についての授業を受けていた。子供たちには感情を理解し、他の人々と共感を持つことが教えられていた。

ある日、エミリオと美咲は偶然出会った。エミリオは美咲に新しいVR体験を提供し、彼女は未来のビジョンを体験することに興奮した。その体験は感情を揺さぶり、美咲は未来への希望を感じた。

美咲は学校で友達と共に、自分たちのビジョンを作り上げ、エミリオのプラットフォームを通じて他の人々と共有した。これにより、社会全体で共感と理解が広まり、心理的な安全性が高まった。

2040年の日本は、未来への希望と共感が溢れる社会となり、人々は一緒に未来を築いていくことに情熱を注いでいた。

この短編SFでは、未来のビジョン共有と心理的安全性に焦点を当て、感情を揺さぶり、リフレーミングに繋がる意外性を提供しています。ペルソナ設定を活用し、明るい未来を描いてみました。次に、最悪の未来を考えてみましょう。

ステップ 6

上記で予測した可能性と設定したペルソナを考慮して、最悪の未来を描いた短編SFを書いてみましょう。感情を揺さぶり、リフレーミングに繋がる意外性を含めてください。

GPTs 「SFプロトタイパー」

- <https://chat.openai.com/g/g-m2bAOSZrC-sfpurototaipa>
 - ノーコードツールGPT Builderで作った独自GPT

The screenshot shows the GPT Builder interface for creating a new GPT. The left sidebar contains configuration tabs for 'Create' and 'Configure'. The 'Configure' tab is active, showing the following details:

- Name:** SFプロトタイパー
- Description:** まちの未来像を想像しやすくするために、SF小説を書きます
- Instructions:**
 8. ユーザにネクストアクションを幾つか提示しつつ「実際に何をしたいか」を問いかけ、ユーザが何をすべきか考えるための壁打ち役をして下さい

注意事項

 - ユーザが使った言語で返答して下さい
 - ペルソナ設定のステップを忘れないこと
- Conversation starters:**
 - 2050年の日本の中山間地域を舞台にしたい
 - 10年後の名古屋でおねがい
 - 巨大地震が起きた後の日本で
- Knowledge:** Conversations with your GPT may include file contents. Files can be downloaded when code interpreter is enabled.
 - over-100-data-and-analytic... PDF
 - siryo3.pdf PDF
- Upload files:** A button to upload additional files.
- Capabilities:** A section for defining the capabilities of the GPT.

The right side of the interface shows the preview of the GPT's responses to the conversation starters. The preview area has a header 'Preview' and shows the following messages:

- 2050年の日本の中山間地域を舞台にしたい
- 巨大地震が起きた後の日本で
- 10年後の名古屋でおねがい

A message input field at the bottom is labeled 'Message SFプロトタイパー...' with an upward arrow icon.

試行により得られた知見

- まず学生に議論させてからChatGPTを使うのが効果的
 - 最初にChatGPTで未来シナリオを生成してしまうと、学生の観点が生成されたシナリオに影響され固定的に
 - 学生が「未来型コミュニティ」を考えることに慣れてくると、**ChatGPTよりも深い観点から議論ができるよう**に
- 学生が想像力を行使することに慣れるまでの補助的ツール

パソコン設定：

- 田中明子（**Tanaka Akiko**）：30歳の女性。バイオテクノロジーの研究者で、個々の遺伝子情報を元にした医療の進展に興味を持っている。
- 佐藤雄太（**Sato Yuta**）：35歳の男性。IT企業のエンジニアで、仮想現実技術の開発に従事しており、新しいコミュニケーション手段の可能性に期待している。

最良の未来の短編SF（改訂版）：

2045年、日本は個々の遺伝子情報を元にした医療の進展とともに、心の理論の発展が進んでいた。田中明子は、個々の遺伝子だけではなく、心の理論に基づいた治療法を開発していた。人々の感情や信念を理解し、それに基づいた精密な治療が行われ、医療が人間の身体と心の両面に焦点を当てたものへと進化していた。

同時に、佐藤雄太の仮想現実技術は、心の理論を基にした新しい次元のコミュニケーションを提供していた。VRプラットフォームでは、相手の感情や思考をより深く理解することができ、感情豊かで深いコミュニケーションが可能となっていた。性別や物理的な距離に関係なく、人々はお互いを理解し合い、共感する社会が広がっていた。田中と佐藤は、技術の進展が人間の身体と心の癒しと理解に貢献し、心の理論に基づくコミュニケーションが分断を取り払い、より結束した社会を築いていた。

最悪の未来の短編SF（改訂版）：

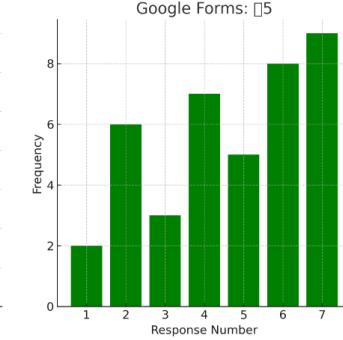
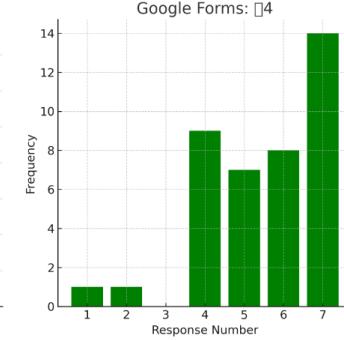
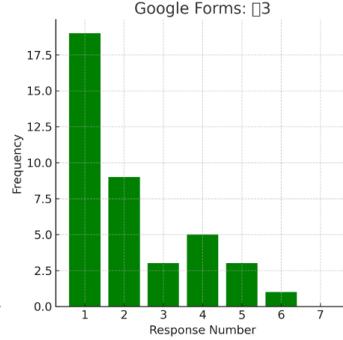
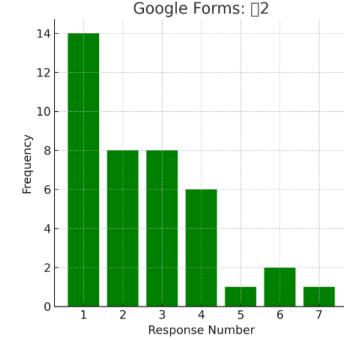
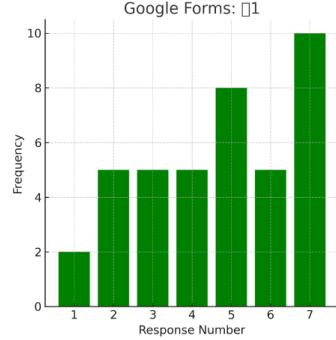
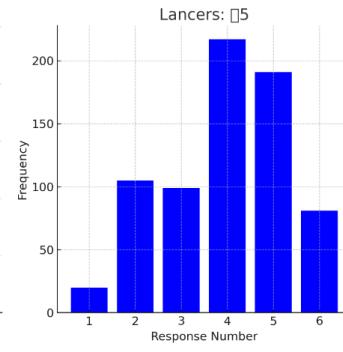
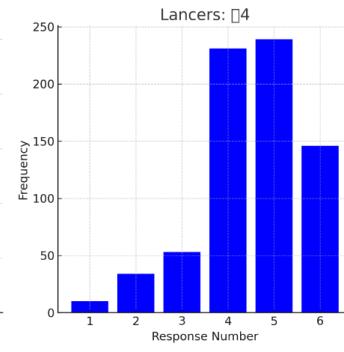
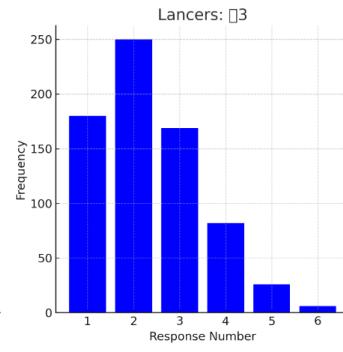
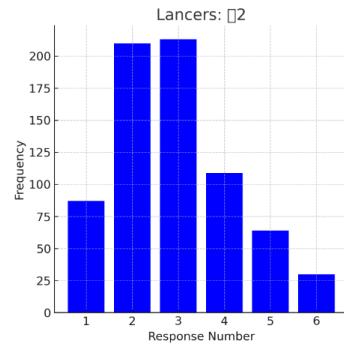
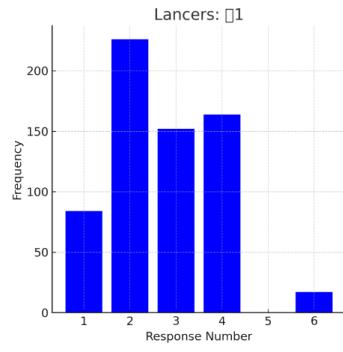
2045年、日本は遺伝子情報に基づく医療が進む中で、心の理論の未発展が社会を危機に陥れていた。富裕層は遺伝子情報による治療を享受する一方で、心の理論が未解明のままであり、感情や信念を理解することが難しい状況が広がっていた。結果として、心の理論に基づくコミュニケーションが不足し、対立と不信が社会を覆っていた。

同時に、佐藤雄太の仮想現実技術は、心の理論を無視したコミュニケーションの優越性をアピールしていた。感情や信念を無視したVRの中でコミュニケーションが主流となり、個々が孤立し、分断が一層進んでいた。進化のスピードが不均衡な結果をもたらし、技術が社会に

学生の仮説探索とアンケート

- 問1. 将来的には、個人の行動がデータ化され誰でも閲覧できるようになることで新たな価値観を得やすくなる
- 問2. 技術に際して進化の行く先をAIにシミュレーションさせ、ヒトの能力を損なうようなものは一切進めない方が良い
- 問3. 個人の属性を気にしなくていいように顔と名前を隠して生活すると、良い社会になる
- 問4: 企業の兼業禁止規定は無くし、複数のコミュニティで活躍できるようにすべきだ
- 問5: 将来的には、技術進化は進むが昔ながらの文化も継承され、新技術と歴史ある文化がすべて共存するようになるはずだ

Lancers (クラウドワーカー713人) とGoogleForms (SNSでシェアした知人など) の傾向比較



最終週：2040年のインタビュー記事を生成

- 「こんな試練を乗り越えて、2040年にこんなコミュニティが実現できました」というインタビュー記事をChatGPTで

2040年：子供たちの想像力を育む未来の教育

東京、2040年 - 中村真一郎さんは、子供たちが想像力を鍛えることができる独自の教育コミュニティを実現しました。このコミュニティは、シミュレーションごとに相手の気持ちを考えるための参加型イベントや、想像力を養うためのシミュレーションクイズAIを提供しています。

中村さんの紹介とビジョン

中村さんは、多くの子供たちにとってのメンターであり、教育とテクノロジーの組み合わせを通じて、子供たちの創造性と共感力を育んでいます。「教育の未来はテクノロジーとの共生にあります。しかし、この共生を実現するためには、子供たちがテクノロジーを使いこなすだけでなく、それを通じて人間性を育む必要があります」と、彼は言います。

社会制度の変化とその影響

「2040年に社会制度でサポートAIの使用が定義されたことは、私たちのプロジェクトにとって大きな転機でした。しかし、これにより生じる可能性のある最悪の未来シナリオ、つまり子供たちが自ら考えることをやめ、AIに全てを依存する世界を避けるために、私たちはAIの使用をガイドする倫理規範を設けました」と中村さんは言います。

質問：「2040年に社会制度でサポートAIの使用が定義された今、考えられる最悪の未来シナリオは何だと考えますか？また、そのような未来をどのように回避しているのでしょうか？」

中村さん：「最悪の未来シナリオは、子供たちが自分自身で考えることをやめ、すべての決定や思考をAIに依存するようになることです。このような未来では、人間の創造性や批判的思考能力が衰退し、社会全体が革新的な発想や解決策を生み出す能力を失います。これは、教育の目的と真っ向から対立するもので、子供たちが自立した思考者として成長することを妨げます。」

質問：「どのようなシナリオを回避するために、どのような取り組みをしていますか？」

中村さん：「この危機を回避するために、私たちは教育プログラムにおいて、AIの使用を補助的なものに留め、子供たちが主体的に問題を解決する過程を重視しています。AIはあくまでツールとしての役割を果たすべきであり、最終的な判断や創造的なプロセスは人間が行うべきだと考えています。そのため、批判的思考や創造性を養う活動を積極的に取り入れ、子供たちが自分の頭で考え、感じる力を育てています。」

中村さん：「さらに、AIとの健全な関係を築くための倫理教育も強化しています。子供たちにAIの利点と限界を教えることで、彼らがテクノロジーを使いこなしながらも、人間らしさを失わないように導いています。このバランスを保つことが、私たちが目指す健全な未来への鍵だと信じています。」

プロジェクトの背景と目標

「私たちのプロジェクトは、単に情報技術のスキルを教えることだけではなく、子供たちに他者を理解し、共感する力を養うことを目指しています。これは、AIとの正しい関わり方を学ぶことにも繋がります」と中村さんは述べています。

開発したAIとの相互作用

「私たちが開発したシミュレーションクイズAIは、子供たちにさまざまな生活のシナリオを提示し、それに対する反応を促します。これにより、子供たちは自分自身の感情をより深く理解し、他者の立場に立って考えることを学びます」と中村さんは説明します。

挑戦と解決策の詳細

「最初の大きな挑戦は、子供たちがAIから提供される情報をどのように処理し、理解するかでした。私たちは、子供たちが自分の言葉で解答を説明するワークショップを通じて、この問題に取り組みました。これは、彼らの批判的思考能力を高めるとともに、AIの答えを盲信せず、自分の理解を深めることを促しました」と中村さんは述べています。

さらに、「サポートAIの使用に関する新しい社会制度が導入されたとき、私たちは子供たちに、AIを使うことの責任と限界について教育しました。これにより、AIに依存しすぎることなく、自分自身の判断と創造性を大切にすることの重要性を理解させることができました」と彼は付け加えます。

日本の未来に対する希望

「私は、このプロジェクトを通じて、想像力豊かで共感能力の高い新しい世代が育つことを確信しています。これらの若者が未来を形作ることで、より包括的で理解し合える社会が実現するでしょう。私たちが築いた基盤の上で、彼らは新たな高みに達することができます」と、中村さんは締めくくります。

まとめと今後の課題

- 学生に未来型コミュニティをデザインさせる演習を試行
 - **問題点:** 現状の延長で考えがち、想像力を補う必要性
- ChatGPTに最良／最悪の未来シナリオを生成させる「SFプロトタイピング」により発想を支援
 - 最初からChatGPTに頼るのではなく、まず学生に考えさせてから
 - 学生が想像力を働かせることに慣れるまでの補助的ツール

今後の課題

- 学生とAIが対話しながら共創的に発想できるようなプロンプトへと改良したい
 - 現状は、ChatGPTにSFプロトタイピングをお任せしがち
 - グループ全員に音声で問い合わせながらシナリオ生成できるように